

[ライブ・サーティ]

# Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

# 211

2015年  
7月-8月



## CLOSE UP

ヘルスケア分野で必要なマネジメントスキルを身に付け、組織強化をめざす

## 課題解決ワークショップ

OMICHI ACADEMY

世界理学療法連盟学会

第57回 日本小児神経学会

OMICHI SCRAMBLE

ボバース記念病院 看護部新人歓迎会

脳梗塞・脳出血の再発予防に関する勉強会を実施

INFORMATION

森之宮病院小児神経科小倉加恵子医師の研究が科学研究費に採択

森之宮病院心臓血管外科加藤雅明部長が朝日放送「おはよう朝日」に出演

森之宮病院が在宅療養後方支援病院になりました



最優秀賞  
「Live30」  
雑誌「Live30」に掲載において  
最も優秀で読者のために  
役立つ情報を提供し  
日本をリードする  
日本経済新聞

ヘルスケア分野で必要なマネジメントスキルを身に付け、組織強化をめざす

## 課題解決ワークショップ

2010年から管理職を対象とした「課題解決ワークショップ」を実施しています。今回は本ワークショップが企画された背景や研修までの流れ、研修内容、今後の展開をご紹介します。



森之宮病院  
リハビリテーション部  
言語療法科副部長  
椎名 英貴 トレーナー



森之宮病院  
看護部副部長  
正壽 佐和子 トレーナー



森之宮病院  
看護部副部長  
柴田 まゆみ トレーナー



森之宮病院  
看護部副部長  
福井 真理子 トレーナー



帝国ホテルクリニック  
企画広報部課長  
貝塚 鉄平 トレーナー



森之宮病院  
看護部科長  
館川 靖子 トレーナー



森之宮病院  
事務部  
フロントサービス課主任  
下里 忠光 トレーナー



森之宮病院  
診療部  
医療社会事業課課長  
藤井 由記代 トレーナー



森之宮病院  
診療部  
地域医療連携室課長  
杉浦 美保 トレーナー



森之宮病院  
リハビリテーション部  
作業療法科科長  
砂古口 雅子 トレーナー

### 法人の内部構造や外部環境の変化を機に体系的研修を企画

2006年の森之宮病院・森之宮クリニックの開設を契機に、この10年間で全職員の5分の1にあたる200名もの職員が新たに入職し、それに伴い新人管理職が増加しました。「早めに対応すれば問題を防ぐことや最小限にできたのにと、思うような相談が増えたと感じました」とプロジェクトオーナーの宮井副理事長は当時を振り返ります。

さらに、研修を発案した天野常務理事は、「国の医療・介護費の抑制策、チーム医療、患者・利用者のニーズの多様化等のヘルスケア分野を取り巻く環境の変化に対応するためにも、一般企業と同じようにマネジメント手法を学ぶ必要があると感じました」と話します。

このような法人の内部構造や外部環境の変化をきっかけとして、パスカルの協力を得て、課題解決ワークショップがスタートしました。

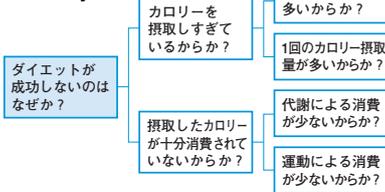
### 全主任・科課長(計146名)に4日間の研修を実施

研修導入時の管理職の能力調査の結果を踏まえ、法人内から40名の主任・科課長が選ばれ、トライアル版の研修が実施されました。そして、それらの受講者の中から10名が選抜され、1年間の

トレーニングを受けた後、正式にトレーナーとして認定されました。2013年10月からは、主任・科課長146名全員に対する4日間の「課題解決ワークショップ」が行われました。10名のトレーナーが2人1組で講師を務め、各回10名前後の受講者が4日間、論理的思考方法やツール等の手法を用いた課題発見から分析、解決策の立案を学びました。

(ロジックツリー)

→ Why



「プロセス分解」を学び、様々なツールを駆使し、問題の真の原因である「真因」を特定します。最終日の4日目は、特定された真因の解決に向けたアイデアを出し、それらのアイデアを評価して、実行プランを作る流れを学びます。以上の4日間の研修を2014年10月までに全受講者に対して実施しました。

**現場の管理職が苦手な「問題の深掘り」に焦点を当てたフォローアップ研修の実施**

4日間の研修終了後にアンケートを行い、その結果、「もう一度、課題解決スキルを学びたい」「より実践的な業務課題をテーマにしてほしい」といった声が多数寄せられました。そこで、トレーナーと研修事務局で検討し、「課題解決ワークショップフォローアップ研修」を実施することになりました。

「医療・介護の専門職は、限られた時間の中で即座に解決策を考えるのは得意ですが、なぜそのような問題が生じたのかを様々な角度から分析する力が弱い傾向があります」と語るトレーナーの柴田副部長と杉浦課長。様々なアイデアが出される中で、今回のフォローアップ研修では現場の管理職が苦手とする「課題発見から課題分析までの流れ」に焦点を当てることになりました。



課題解決スキル強化ワーキングの風景

2015年1月から6月にかけて、4日間の研修を受けた全受講者に対して、2時間のフォローアップ研修を実施しました。受講者は、事前課題として、

自部署の業務課題を発見し、その問題がなぜ生じているか、ロジックツリーを用いて分析しました。研修当日は、事前課題に関するプレゼンテーションを行い、質疑応答やトレーナーによる講評が行われました。業務課題を深掘りすることを通じて、多くの受講者が課題の発見から分析に至るステップの重要性を改めて学びました。

**法人内の次世代の育成、そして法人外への展開も視野に**

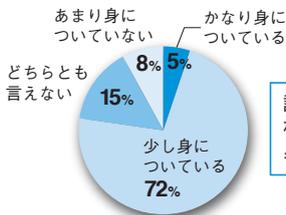
フォローアップ研修終了後のアンケートの結果を見ると、約8割の受講者が論理的な考え方や分析ツールの使い方が身に付いている(円グラフ1)、約6割の受講者が学んだ論理的な考え方や分析ツールを実践している(円グラフ2)と回答しています。受講者も課題解決スキルが少しずつ身についてきていると実感しているようです。

これまでの取り組みを振り返り、「この研修を機に自分たち自身で学習して成長していく構造を構築し、職員のモチベーションを高めていきたい」と語る宮井副理事長。また、天野常務理事も「他のヘルスケア組織にはない、人財が育ち、次世代を担う管理職を育成するという非常に価値のある投資を今後も行っていきたい」と話します。また、トレーナーたちからも「管理職たちの口から『ロジック』や『M E C E』という言葉

葉が自然と出てくるようになってきた。今後も課題解決スキルを持ったスタッフを増やしていきたい」、「研修を通して、課題解決スキルだけではなく、管理職としてのあるべき姿も同時に伝えていきたい」との抱負が寄せられています。

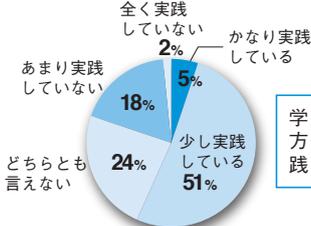
今後は管理職だけでなく一般職員も対象とした本研修の実施が検討されています。また、日経ヘルスケアの特集「リーダー、育てていますか？」経営支える人材の育成で変革時代を生き抜く(2014年12月号)でも、課題解決ワークショップが取り上げられ、将来的には法人内にとどまらず、トレーナーによる外部講習会の開催や研修テキストの出版等、法人外へ展開していくことも視野に取り組みが進められています。これからの大道会の成長にぜひご期待下さい。

(円グラフ1)



論理的な考え方や分析ツールの使い方は身につきましたか？

(円グラフ2)



学んだ論理的な考え方や分析ツールを実践していますか？

**研修を振り返って トレーナーの感想**

- リハビリテーション部での本格的な課題解決手法の導入に向けて頑張りたいと思います(椎名)
- 実践を積むことで自らに滲みっていく力となります。管理職の真剣な取り組みを心強く思いました(正壽)
- トレーナーとしてプレッシャーを感じましたが、管理職の真剣な姿勢を大変嬉しく感じています(柴田)
- 現場で活用できるかがカギです。活用意欲につながることが願っています(福井)
- 多職種の課題やアイデアを共有する貴重な研修となりました(貝塚)
- たった4回の研修で見事に自分のものにしていく管理職の姿に感動しています(舘川)
- 負担は大きかったですが、現場の事例で発表や振り返りができたことは意義があると感じました(下里)
- 皆さんの真摯な取り組みのおかげで、現場の課題を楽しく整理できました(藤井)
- 他施設の管理職の方々と課題を共有し、私自身も頑張ろうとパワーをもらいました(杉浦)
- 積極的な研修への取り組みが、業務にも反映されていることを実感しました(砂古口)

発表報告

世界理学療法連盟学会  
WCPT Congress 2015

日程：5月1日～4日  
場所：シンガポール



ボバース記念病院  
リハビリテーション部  
理学療法科主任  
藤田 良樹

## 「立位姿勢での頭部回旋運動が バランス機能に及ぼす影響に ついて」の研究を発表

シンガポールで開催された世界理学療法学会(以下、WCPT)に参加させて頂きました。WCPTは4年ごとに開催される世界最大の理学療法学会で、今回は世界114か国から3538名、日本からは参加国中最多の434名が参加しました。「脳卒中」、「小児」、「筋骨格系」、「神経学」、「スポーツ」、「ウーマンズヘルス」、「検査測定」、「教育」等、非常に多くの分野で口述発表やポスター発表、基調講演等が行われました。

私は、「立位姿勢での頭部回旋運動がバランス機能に及ぼす影響について」発表を行いました。日常業務において乗動作時や立位姿勢からの方向転換時に、患者さんがバランスを崩す場面を経験していたため、回旋条件がどのようになり重心動揺へ影響を及ぼしているのかについて健康成人で検証を行いました。研究手法は重心動揺計の上で立位姿勢を保持し、頸部回旋範囲を20度、30度、40度と3つの条件に分類して比較

を行いました。その結果、頭部回旋条件では20度と比較して40度で有意な重心動揺の増大を認め、頸部回旋時に対側前方に重心が移動することが示唆されました。発表後、多くの方から質問を受け、研究の視点を広げる機会となりました。加えてノルウェーのジャーナル編集者から執筆依頼を頂くことが出来ました。今回は健康成人を対象に研究を行ったため、今後は転倒予防の観点から研究を進めていきたいと思えます。

国際学会に初参加し、様々な国のセラピストと話をする機会を得ました。学会の特徴として、日本に比べ海外のセラピストは治療の介入研究が多いと感じることが出来ました。これは普段の臨床業務においても、評価を適切に行い、治療の有効性を検証する点で類似しており、改めて日々の臨床を大切に取り組んでいきたいと思えました。



ボバース記念病院  
リハビリテーション部  
理学療法科  
阪本 誠

## 「足関節に対する促通手技が 立位バランスに及ぼす即時効果」 の研究を発表

世界理学療法学会にてポスター発表をさせて頂きました。私の研究のテーマは、「足関節に対する促通手技が立位バランスに及ぼす即時効果」でした。日常の臨床現場で実際に用いている手技がバランス能力に対しどのような効果をもたらしているかという事に対し以前から興味がありました。本研究は健康

常成人を対象に実施しました。被験者は足関節の随意的な足関節底屈・背屈運動を行った場合、もしくはセラピストの足関節に対する促通手技を受けた場合に、どちらかが片脚立位バランスの改善が見られたかを検証。その結果、足関節運動を行った場合の方が、重心移動の軌跡が短縮していました。これはバランス機能改善の為にセラピストの介入がある場合の方がより良い回復につながる可能性があることを示唆していると考えられます。しかし、バランス機能改善のメカニズムや長期的な介入の結果は不明のため、今後も継続した研究が必要と考えています。

本学会で印象的だったことは、脳卒中の上肢の治療で有名なWoolf氏が、単純に機能回復のみを論じたデータでは不十分と、改めて言及されたことでした。日本では地域包括ケアを推進する中で、活動参加の重要性が叫ばれています。今後、当院で臨床的な研究を進める上で、それらを評価するアウトカムを整備し、活用していくことが必要ではないかと考えています。

発表報告

## 第57回 日本小児神経学会



森之宮病院  
小児神経科部長  
荒井 洋

## 障がいがある子どもの 医療レベル向上を めざしていきたい

日程：5月28日～30日  
場所：帝国ホテル大阪

大阪では3回目となる本学会は、永井利三郎大阪大学名誉教授(現プール学院大学教授)を会長として大阪大学医学部小児科の神経・代謝グループが中心となり、2年間にわたる周到な準備を経て開催されました。小児神経科医は、基礎研究、臨床医学から発達、社会活動に至る様々な領域に関わるため、国内外から多くの講師やシンポジストを招いて幅広いプログラムが組まれました。

私は準備委員の一人として、特に脳性麻痺に関する3つの新しいプログラムを作成しました。それは、実践教育セミナー、海外からの招待講演、そして「脳性麻痺アップデート」と題したシンポジウムです。セミナーには1000人が参加され、私が基礎的な診断・分類方法を、聖隷三方原病院の横地健治医師が詳細な症候学を講義しました。シンポジウムでは、私が全体的な治療のエビデンスについて、森之宮病院の柴田徹副院長が整形外科的治療について講演しました。また、旭川医科大学の高草木薫教授が姿勢と運動に関わる神経機構について最新の知見を伝えられました。

残念ながら、Boyd教授が急な事情で来日できなくなりました。招待講演は実現しませんでした。しかし、永井会長のご尽力によって、9月に改めてBoyd教授の講演を含めたサテライトシンポジウムが開催できることとなりました。海外の治療の優れた部分を取り入れ、日本の脳性麻痺医療をさらに発展させる絶好の機会ととらえ、全国から協力を募って成功に結び付けたいと考えています。

森之宮病院小児神経科からは、平井



講義を行う  
荒井部長



柴田副院長による講義

聡里医師、大村警代医師、北井征宏医師が脳性麻痺や先天性神経疾患に関する口演発表を行いました。小倉加恵子医師は、厚生労働省による制度の改定に関わった経験から、小児慢性特定疾病に関するシンポジウムの企画に携わり、座長と演者を務めました。また、当科から大阪大学に移った青天目信助教は、学会事務局長として企画から運営まで責任者として重責を果たしました。

大阪大学小児神経・代謝グループが総力を挙げて企画した本学会は、過去最高の2200人以上の参加者を集め、成功裡に終わりました。特に脳性麻痺のシンポジウムの参加者数はプログラマ全体で2番目の400人近くに達し、初企画としては予想外の大成功を収めました。小児神経科医の中で脳性麻痺やリハビリテーションに対する興味が高まり、レベルが上がってきていることを実感します。これも大道会全体のバックアップ、そして普段から私達を支えて下さっている患者さんご家族のおかげです。今後も学会活動を通じて障がいがある子ども達の医療レベルの向上に尽くしたいと思います。

### 参加報告

## がんのリハビリテーション 実践セミナー



森之宮病院看護部  
7階東病棟主任  
長井 治江

### がんリハビリテーションの 必要性を再認識

日程：4月4日、5日  
場所：東京都国立看護大学

4月、東京都清瀬市の国立看護大学にて財団法人(厚生労働省)ライフ・プランニング・センター主催の本セミナーに参加させて頂きました。

近年、がん治療を終えた、あるいは、治療を受けているがん患者さんは増加傾向にあります。がんは、不治の病といわれていた時代から、がんと共存する時代になっていきます。このような社会情勢の中で、がんリハビリががん治療の重要な一分野として認識され、診療報酬改定でも、がん患者リハビリテーション料(1単位205点、1日6単位まで算定)が加算されています。

がんリハビリは、予防的、回復的、維持的、緩和的の4つに分類されます。単に機能回復のアプローチだけではなく、余命が限られたがん患者さんの機能維持や緩和、周術期からの予防でもアプローチされます。これまで看護師だけで関わっていた終末期における尊厳への関わりや家族への関わりも、リハビリの視点を取り入れ専門的に多職種で関わっていく事が重要とされています。これらの視点を取り入れながら、今

後、森之宮病院でのがんリハビリが軌道に乗って遂行されていくように、また、森之宮病院の一人でも多くのがん患者さんのニーズに適切できるように取り組んでいきたいと思っています。



セミナー終了後の喜びの顔

### 参加報告

## キャリア入職者研修会

日程：5月12日  
場所：森之宮病院ウッディホール



森之宮病院  
リハビリテーション部  
理学療法科  
佐藤 玲名

### 社会人としての心構えと 大道会の一員としての自覚を 持つことができた

今回の研修会で学んだ接遇のポイントは3つあり、尊重する、誰に対しても隔たりなく接する、利用者から常に見られているという意識を持つことです。忙しくてもしっかりと状況説明をし、相手に分かりやすく伝えることが必要です。これらは、忙しくなると疎かにな

りがちですが、そういった積み重ねが相手を安心させ、信頼関係へつながると感じました。

これからは相手の身になり、丁寧な説明を心掛けていきたいと思っています。



森之宮病院  
画像診断部  
画像診断科  
國方 恵梨子

### 職場における個人情報の 保護意識が高まった

今回の研修会は、盛りだくさんの内容でしたが、特に個人情報管理規定については、とても考えさせられる点が多く、改めて気を引き締めて取り扱いに注意しなければならぬと感じました。

私達が取り扱う個人情報は、患者さんが私達を信頼し提供して下さいているもので、電子カルテはもちろん、IDも個人情報に含まれます。たとえメモ1枚であっても取り扱いに注意を払うべきで、院内での職員同士の会話にも気をつけなければなりません。また、インターネットやSNSは簡単に利用出来ますが、一旦、ネット上に漏れてしまった情報や画像は瞬く間に広がってしまい、それを回収することはほぼ不可能であるということを肝に銘じておかなければならないと思いました。

最近、個人情報流出が多々問題になっていますが、「個人情報を取り扱っている」という自覚と、「院内であっても誰がどこで聞いているか、見ているか分からない」という意識を常にもって、業務に取り組んでいきたいと思っています。

ボバース  
記念病院

## 今年も看護部新人歓迎会を開催しました

4月22日にホテルグランヴィア大阪・桐の間でボバース記念病院の看護部新人歓迎会が開催されました。

今年も新人看護師が36名参加し、各テーブルを回って自己アピール。その後、先輩方から新人のアピールをどこまで覚えているかを答えてもらい、一番答えの多かった新人が優秀賞を獲得するという催しを行いました。初々しく必死に

アピールする新人と、程よくアールコールが入った状態で必死に覚えようとすると先輩方。自分の出身地や趣味、家族の話等、色々な情報が飛び交う中、和気あいあいとした雰囲気です。次第に新人の緊張もほぐれて楽しそうに話していました。3人の中から19もの答えが出た新人が優秀賞を取りました。(ボバース記念病院看護部3階病棟主任 江本幸代)

森之宮病院

## むし歯予防の啓発運動に取り組んでいます

毎年、森之宮病院の歯科衛生士と歯科衛生士養成校の臨床実習生でむし歯予防の啓発運動に取り組んでいます。

今年も、子ども達に大人気の妖怪ウォッチのキャラクターに扮し、アイススクリームが大好きなコマさんが、妖怪むし歯伯爵によりむし歯になってしまおう内容。ジバニャン達と一緒に歯医者さんに行き、キラキラ銀歯をつけてもらい、最後にむし歯にならな



スタッフによる妖怪ウォッチ劇

いために子ども達と3つの約束をしました。①よく噛んで何でも残さず食べよう、②おやつは時間を決めて食べよう、③忘れず歯をみがこう。今後このような活動を続けて、むし歯予防に取り組んでいきたいと思えます。(森之宮病院歯科診療部 日和潮音)

森之宮病院

## 沖縄の唄ライブが開催されました

6月17日、森之宮病院1階こもれび広場にてチャーターローズによる沖縄の唄ライブが行われました。

チャーターローズの皆さんがお越し下さるのは、今回で4回目です。「島唄」、「島人ぬ宝」、「花」、「ハイサイおじさん」等の曲を含め、計6曲を披露して下さいました。「ハイサイおじさん」は、あの「変なおじさん」の元となつ

た曲ということもあり、楽しいリズムに合わせて手を左右に動かして、また「安里屋ユンタ」という曲では「サアユイユイ」と合いの手を入れて、聞いている側も参加して盛り上がりました。チャーターローズの皆さんの演奏と歌声で、沖縄の風と香りを感じ、心の栄養補給ができたように思います。楽しいライブをありがとうございました。



会場が一体となって盛り上がりました

(森之宮病院診療技術部栄養サービスク 寺西有衣)

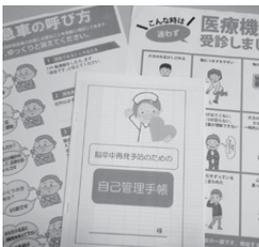
森之宮病院

## 脳梗塞・脳出血の再発予防に関する勉強会を実施しています

今年4月から毎月第3土曜日に4階デイルームで、入院中の患者さん・ご家族を対象に、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師による脳梗塞・脳出血の再発予防に関する勉強会を開催しています。

皆様が参加しやすいようにリハビリ時間が少なめにご家族も来院しやすい土曜日の午後1時、10年以内には2人に1人

は再発するといわれています。とても再発しやすい病気であることを理解して頂き、再発のリスクファクターや内服継続の必要性、食事や禁煙指導等、日常生活の注意点について説明を行っています。また、退院後にご自宅で活用してもらいやすいように脳卒中を疑う症状を一覧にした「こんな時には迷わず医療機関を受診しましょう」のポスターもお渡しして、より身近な勉強会となるよ



勉強会の案内掲示や配付資料

うに努めています。この勉強会でさらに自分の体に興味を持ってもらうきっかけになれば良いと思います。さらに退院後も健康を維持でき、より良い人生の再出発ができるようにサポートを続けていきたいと思っています。(森之宮病院看護部5階東病棟科長 安福偉子)

## 田中裕子副部長が 大阪府看護事業功労者として 表彰されました

5月12日はナイチンゲールの誕生日。それにちなみ、全国で看護職と市民、行政、保健医療福祉関係者等が協力して「看護の祭典」の催しが行われます。5月9日、大阪府看護協会ナースングアート大阪では、大阪府で勤務年数20年以上の功労者を表彰する大阪府看護事業功労者の表彰式が開催され、森之宮病院から田中裕子副部長が表彰されました。

田中副部長は昭和56年から献身的に看護実践に着手。平成元年、当法人に入職。21年には副看護部長へ昇進。業務改善・教育体制構築・WLBへの取り組み、労務管理に関する研究・院内のプロジェクトチームの中心的メンバーとして優れたマネジメント能力を発揮しています。

とても熱い看護観と教育への想いがあり、それが看護部の

を活気づけ、発展への原動力となつていきます。また、森之宮病院看護部のイメージキャラクターを手作りし、疲れた看護師を癒してくれる等、優しい側面も持ち合わせている。看護部にとってはなくてはならない副部長です。今後も看護のさらなる発展に寄与されることを期待しています。  
(森之宮病院看護部部長 福岡幸代)



## 大橋知行名誉副院長が 平成27年度公衆衛生事業功労者の 厚生労働大臣表彰を受賞しました

公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰は、多年にわたり公衆衛生事業のために献身的活動を続け、功績が顕著であり、その事業に携わる者の模範となる個人または団体に贈られるものです。

森之宮病院大橋知行名誉副院長は、長年にわたって障がいのある多くの方々の治療、リハビリテーションに理学療法士の立場から尽力してきました。

特に脳性麻痺等の小児分野、脳卒中後遺症の成人分野では、治療を通して多くの人達の社会復帰をお手伝いするとともに指導的役割を果たし、研修会や講習会等を通して全国にわたって多くの療法士を育てました。地域でのリハビリテーション事業への療法士の派遣から、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等の地域リハビリテーションの先駆的な立ち上げを始め、様々な健康増進、地域保健活動や介護保険事業に尽力しました。

また、ポバース研究会会長、大阪府理学療法士連盟会長、

大阪府理学療法士会相談役等を歴任し、多方面の活動に貢献しています。

このように施設・病院・地域等の幅広い分野において、長年にわたり理学療法士の立場から貢献してきたことが評価され、今回の受賞につながったと思います。

当院からの受賞は平成23年、紀伊克昌名誉副院長に続き2人目となり、当院の社会貢献に対する取り組みを一層育てなくてはと気が引き締まる思いです。

(森之宮病院リハビリテーション部部长 永島智里)



授賞式後の記念撮影



式典の様子

頑張っている職員に注目!

ただ今、奮闘中

#50



副理事長秘書  
奥田陽子 課員

奥田陽子秘書は森之宮病院開院の年に入職し、勤続10年目。まだ10年!?と思うほど良い意味で貫禄たっぷりです。あらゆる部署から頼られ、また、きちんと対応するので信頼はとても厚いです。宮井副理事長の秘書としての働きぶりは院内外からお墨付きですが、ここでは違う一面をご紹介します。

当法人の各プロジェクトでは事務的業務に加え、広い視野で全体を見渡し、縁の下から献身的に支えています。また、広報推進委員会へアドバイザーとして参加し、広報の活性化に燃えています。一方、平成24年には働きながら大学院へ通い、MBA(経営管理修士)を取得、その後も個人的に各種研修会に積極的に参加し自己を高めています。海外のグローバルリーダーの育成研修にまで参加したのは驚きでしたが、1週間のプログラムを外国人の中でこなし、一段とパワーアップして帰国しました。

それから、一緒に勉強する人も探していますので、負けない自信のある方はご一報下さい。

(森之宮病院事務部庶務課主任 川谷真紀)



## 森之宮病院小児神経科小倉加恵子医師の研究が日本学術振興会の平成27年度学術研究助成基金助成金の基盤研究に採択されました



独立行政法人日本学術振興会の平成27年度学術研究助成基金助成金の基盤研究に、森之宮病院小児神経科小倉加恵子医師が申請した課題「脳性麻痺児の読み書き・計算における強みと弱み及びその神経基盤の解明」が採択されました。

小倉医師は鳥取大学附属病院脳神経小児科にて小児神経学を研鑽した後、東北大学大学院医学系研究科で

高次脳機能障害について先端的な研究に携わっていました。森之宮病院で診療を受けている脳性麻痺等の運動障害があるお子さんは、より複雑な機能の問題をしばしば抱えておられます。そのような患者さんの問題を脳機能の面から解明し、より適切な介入方法につなげたいと、昨年秋に入職しました。

小倉医師は、「当法人では、脳性麻痺の患者さんに対してライフステージを通じた包括的な支援をめざすプログラムが始まりました。脳性麻痺の患者さんは認知機能に特徴がある

とされていますが、十分には分かっていません。例えば、読み書きや計算の能力は学習に直結し、就学や社会的自立・就労にも欠かせない要素です。私達はその特徴についての理解をもっと深める必要があると思っています。森之宮病院の様々な職種スタッフと協力し、神経イメージングデータと組み合わせることで、患者さんの成人期に向けた適切かつ科学的な支援を提供できるように本研究を進めていきたいと考えています」と語っています。

## 森之宮病院心臓血管外科加藤雅明部長が朝日放送「おはよう朝日」に出演しました

6月24日(水)、ABC朝日放送「おはよう朝日」の「けさのクローズアップ」コーナーに森之宮病院心臓血管外科加藤雅明部長が出演しました。「けさのクローズアップ」は、日常生活に役立つ情報を届けるコーナーで、今回は大動脈解離がテーマでした。

番組の中で加藤部長は、「大動脈解離は大動脈の血管が裂ける病気で、

突然、痛みが起これり、その痛みが移動してしまうことから、的確な診断がされないケースもあります。発症した方の約2割が病院に着く前に亡くなってしまふ怖い病気です。遺伝的な要因で発症する場合がありますが、高血圧と関係が深いことが分かっています。大動脈解離になる人の約3分の2が高血圧でした。過剰な塩分摂取を控え、適度な運動を心がけま

しょう」と解説しました。



テレビ取材を受ける加藤医師

## 森之宮病院が在宅療養後方支援病院になりました

森之宮病院では地域の在宅医療に少しでも貢献できるよう、在宅療養後方支援病院を申請しました。

ご自宅で在宅療養中の患者さんの緊急時に24時間対応し、必要に応じて入院の受け入れをします。登録医を通じて、事前に当院に情報をご提供頂き、患者さん・ご家族の状況を事

前に面談させて頂くことで、スムーズな対応をさせていただきます。

患者さんが安心して地域で暮らしていけるように、今後も引き続き、登録医と連携し、後方支援していきます。

(森之宮病院診療部地域医療連携室課長 杉浦美保)

### ご寄付を頂きました

田島宗太様(石川県)、川上徳昭様(東京都)よりご寄付を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

## Live30【ライブ・サーティ】

2015年7-8月号 vol.211 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会

〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1

TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

### ■大道会

社会医療法人大道会本部

TEL 06(6962)9621

森之宮病院

TEL 06(6969)0111

ポバース記念病院

TEL 06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

TEL 06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

TEL 06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

TEL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

TEL 06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

TEL 06(6967)1123

訪問看護ステーションおおみち森之宮営業所

TEL 06(6942)3737

訪問看護ステーション東成おおみち

TEL 06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

TEL 06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

TEL 06(4259)5311

レンタルケアおおみち

TEL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

TEL 06(6974)7388

東成山学学園(保育園)

TEL 06(6974)7377

●大道会ホームページ

<http://www.omichikai.or.jp>

大道会



### 編集後記

暑い季節になりました。夏休みやお盆休みにレジャーへ出かける方も多いのではないのでしょうか。

私は暑い季節が苦手でしたが、入職後、夏季休暇に沖縄を旅行したことがきっかけで、好きになりました。沖縄の青い海と空が綺麗で、開放的な気分になります。昨年の夏季休暇では、気持ちが高ぶり過ぎたのか旅行先で風邪を引きました。

楽しい予定が続き、計画する時間もわくわくしますが、夏バテないように体調管理をしようと思います。

(広報推進委員/森之宮クリニック 企画広報部 笈友里恵)